

沼津市まち・ひと・しごと創生 総合戦略

平成27年10月

令和2年3月期間延長

目 次

I. 基本的な考え方

1. 人口減少の現状認識	1
2. 地方創生に向けた基本的視点	2
3. 推進体制とPDCAの確立	2
4. 目指す将来のまちの姿	3

II. 基本目標

1. 沼津における安定した雇用を創出する	4
2. 沼津への新しいひとの流れをつくる	4
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	5
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	5

III. 施策の方向と具体的な取組

1. 沼津における安定した雇用を創出する	7
1-1 地場製品の競争力強化と経営の安定化	
1-2 新たな仕事づくりと雇用の創出	
1-3 地域産業を担う人材の確保・育成	
1-4 立地環境を活かした企業誘致	
2. 沼津への新しいひとの流れをつくる	12
2-1 まちなか居住の推進と都市的魅力の向上	
2-2 “ぬまづ暮らし”の発信による住み替えの促進	
2-3 観光資源を最大限活用した交流人口の拡大	
2-4 外国人の誘客とおもてなしの充実	
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	21
3-1 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現	
3-2 若い世代の経済的安定	
3-3 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
3-4 子ども・子育て支援の充実	
3-5 沼津らしい子ども教育の更なる推進	
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	29
4-1 災害に強い安全・安心な生活環境づくり	
4-2 便利で快適な居住環境の整備	
4-3 共に支え合う地域コミュニティの充実	

I. 基本的な考え方

1. 人口減少の現状認識

沼津市は、1994 年（平成 6 年）に社会動態の減少が自然動態の増加を上回り、その後、人口減少が続いている。

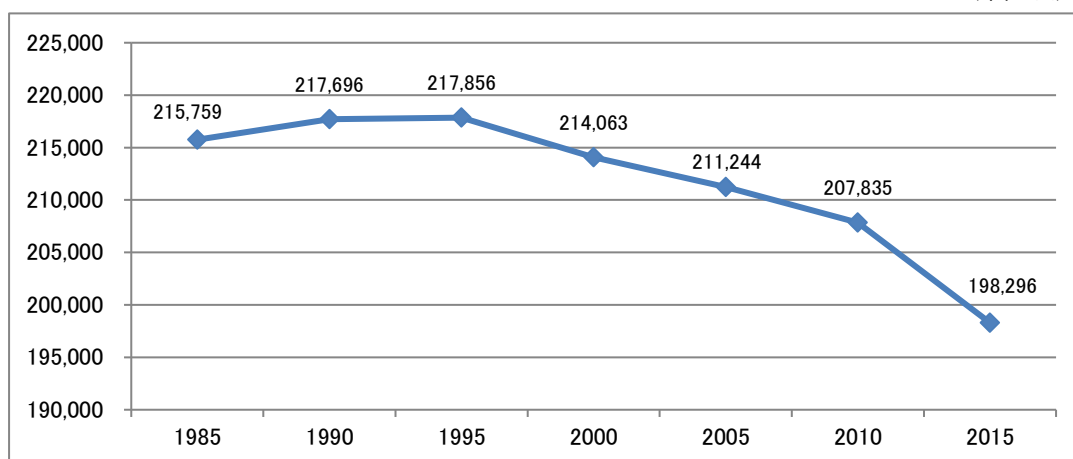
社会動態は、2014 年（平成 26 年）の全国転出超過市町村がワースト 7 位（1,089 人）であり、2012 年（平成 24 年）から 3 年連続ワースト 10 位以内と、全国的に見ても転出超過が著しく、特に、若年層や子育て世代が東京圏をはじめ静岡市や近隣市町へ流出している。

一方、自然動態は、2005 年（平成 17 年）から死亡数が出生数を上回り、減少に転じた。その後も減少幅は拡大しており、2014 年は 1,043 人の減少となっている。

本市の将来の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方式の試算によると、2040 年（令和 22 年）には 14 万 5 千万人、2060 年（令和 42 年）には 10 万人まで人口が減少することが見込まれる。

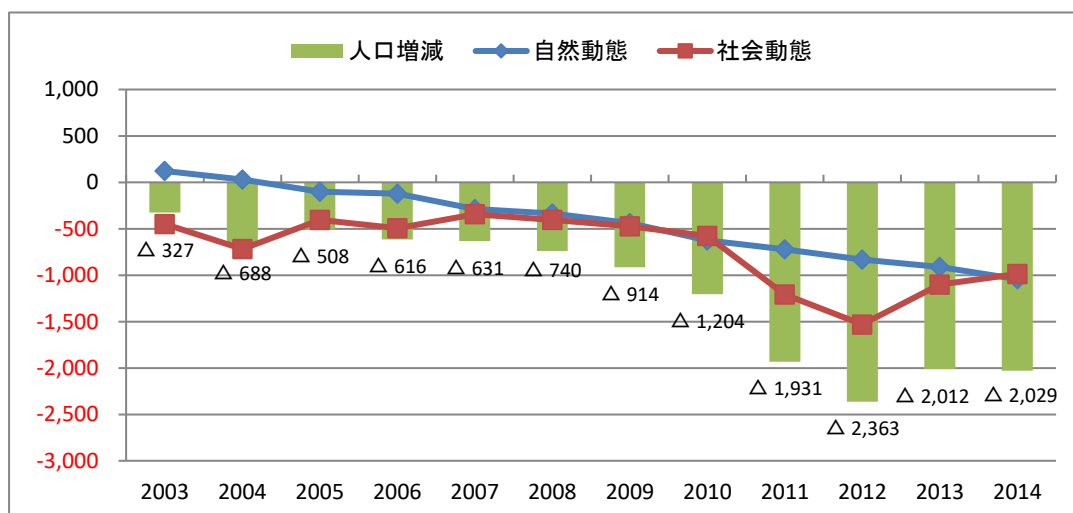
今後も人口減少が続けば、地域やまち全体の衰退が懸念されることから、市民の生活環境や地域経済を維持し、将来にわたり本市のまちの活力を保つためには、可能な限り今後の人口減少を抑えることが必要である。

図 1 総人口の推移（住民基本台帳）（単位：人）



（各年 4 月 1 日現在、1985 年から 2000 年は旧戸田村の人口を含む）

図 2 自然動態・社会動態の動向（住民基本台帳）（単位：人）



2. 地方創生に向けた基本的視点

このような状況を踏まえ、本市は、2014 年（平成 26 年）に、沼津駅を中心に概ね 3 k m 圏内を「都市的居住圏」と位置付け、コンパクトシティのあり方を明確化するとともに、より柔軟で効果的な土地利用の新たな方向を総合計画に明示するなど、社会情勢に的確に対応したまちづくりを進め、定住人口の確保と交流人口の拡大に取り組んでいる。

今後においても、人口減少を克服し、地方創生を成し遂げ、目指すまちづくりを実現するため、以下の基本的視点から、人口、経済、地域社会の諸課題に対して、市民や企業、関係団体とともに問題意識を共有し、危機感を持って取り組んでいく。

《基本的視点》

① 若年層や子育て世代の人口流入を促進し、人口流出を抑制する。

本市から東京圏や近隣市町への人口流出に歯止めをかけるため、雇用の場の確保と、自然に恵まれ、都会的で暮らしやすいまちの魅力を市内外へ発信し、若年層や子育て世代の人口減少を抑制する。

② 交通利便性と地域資源を活かし、交流人口の拡大を図る。

東京圏との近接性や交通利便性、豊かな自然環境をはじめ、歴史・文化遺産、数多くの特産品などの多種多様な地域資源を活かし、交流人口の拡大を図る。

③ 若い世代の就労・結婚・子育てへの不安を解消し、幸せを感じる暮らしを実現する。

人口減少を克服するために、若い世代が安心して就労、結婚、妊娠、出産、子育てができ、本市で暮らすことに幸せを感じられるような社会経済環境を整備する。

④ 地域の特性に即して地域課題を解決する。

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地震津波対策など地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるようにする。

3. 推進体制とPDCAの確立

まち・ひと・しごと創生の推進にあたっては、市長を本部長とする「沼津市地方創生推進本部」を平成 27 年 1 月に設置するとともに、庁内推進体制として、関係部課長で構成する「幹事会」と各部の若手職員で構成する「プロジェクトチーム」を組織し、人口ビジョン・総合戦略の策定や企画立案、政策の進捗管理等を行う。

また、学識経験者や民間団体、市民等で構成する外部組織「沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」において、総合戦略の政策目標や重要行政評価指標（KPI）に基づく効果検証、それに基づく改善に関し意見聴取を行いながら、PDCAサイクルを確立する。

4. 目指す将来のまちの姿

今後、全国の市町村が人口の確保策に取り組む中で、本市が人口減少の抑制と流入人口の確保を図るためには、他地域にはない本市だけの魅力を顕在化して、市内外に情報を発信しながら、誰もが訪れたい、住み続けたいと思うまちづくりを進めることが重要である。

本市は静岡県東部の拠点都市として、周辺市町に比べ高次都市機能を有する一方で、首都圏に比較的近く、通勤や通学も可能な地理的条件でありながら、大都市にはない豊かな自然環境や多彩な観光資源にも恵まれ、市民一人ひとりが、仕事、生活、趣味などの側面で個性的で多様なライフスタイルを実現するための基盤が整っている。

このことから、「沼津市に居住すれば、都市的魅力を活かしながら、大都市圏では難しい自分らしい生活を楽しめる“ぬまづ暮らし”の実現」を、将来のまちの姿として、今後目指すべき目標に位置づけ、各分野の施策を着実に推進していく。

将来のまちの姿

都市的魅力と自分らしい生活を楽しめる“ぬまづ暮らし”の実現

II. 基本目標

人口ビジョンを踏まえ、行政とともに市民や地域、企業、関係団体がそれぞれの役割を担い、連携を図りながら、様々な施策に積極的に取り組むため、「4つの基本目標」を設定する。

1. 沼津における安定した雇用を創出する

《数値目標》

- 事業所数 10,712 事業所（平成 24 年実績） ⇒ 10,000 事業所（令和 2 年）
- 従業者数 10 万 6 千人（平成 24 年実績） ⇒ 11 万人（令和 2 年）

人口減少の抑制と東京圏への人口流出を是正するためには、「しごと」と「ひと」の好循環を確立する必要があり、まずは、本市に「しごと」をつくることが重要である。

平成 26 年度の 5 歳年齢別の転入・転出状況では、20 歳から 24 歳と 25 歳から 29 歳の転入数、転出数ともに 1,000 人を超過し、いずれも約 130 人の転出超過にあり、東京圏への流出が多数を占めるほか、転入者・転出者への窓口アンケートでは、転入・転出の主な理由として、「仕事のため」が約 6 割という調査結果となっている。

また、静岡県推計では、平成 24 年の沼津市総生産額は 7,957 億円、業種別内訳ではサービス業（21.7%）、製造業（17.9%）の順で、周辺他市町と比べ多くの業種がバランスよく存在している一方で、事業所数や従業者数は年々減少している。

このような状況を踏まえ、本市の雇用を支える卸売・小売業やサービス業、製造業、他市町に比べて総生産額に占める割合が高い農林水産業の競争力を強化するとともに、若年者と企業の就職マッチング等による人材の確保・育成、まちなかへの起業・創業の支援、県ファルマバレープロジェクトとの連携等による企業立地を促進し、若い世代の安定した雇用を創出していく。

2. 沼津への新しいひとの流れをつくる

《数値目標》

- 転出超過数 986 人（平成 26 年度実績） ⇒ 社会移動均衡（令和 2 年度）
- 観光交流客数 381 万 5 千人（平成 26 年度実績） ⇒ 500 万人（令和 2 年度）

これまで本市は、交通の要衝として商業や業務などの機能が集積し、人・物・情報の往来拠点として栄え、こうした多くの交流が本市の発展を支えてきた。

今後も、東名・新東名のスマートインターチェンジの整備や東駿河湾環状道路（沼津岡宮～愛鷹）の整備促進、東駿河湾環状道路（愛鷹～原）の新規事業化等に合わせた道路ネットワークの構築による交通利便性の更なる向上を図り、多くの人々が本市を訪れ、まちの魅力を感じ、住みたいと感じるまちづくりを進め、本市への新しいひとの流れを作っていく。

都市機能が集積する中心市街地では、市街地再開発や香陵公園周辺整備等の基盤整備により都市的魅力的向上を図りつつ、まちなかのにぎわいを創出し、生活利便性の高いまちなかへの居住を促進する。

また、ぬまづの宝である“海”や“水辺”の魅力の顕在化や、歴史・文化資源の保存・活用を

図るなど、地域資源を最大限活かした様々な取組とともに、年々増加している外国人観光客への受入環境の整備を進め、交流人口の拡大を図っていく。

さらには、市民一人ひとりが、自分らしいライフスタイルを実現できる“ぬまづ暮らし”に誇りを抱き、市民自らが沼津の持つ素晴らしさを広めながら、まちのイメージアップを図っていく。

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

《数値目標》

- 出生数 1,268 人（平成 26 年度実績） ⇒ 1,200 人（令和 2 年度）
- 子育て世帯数 18,546 世帯（平成 27 年 4 月 1 日） ⇒ 18,000 世帯（令和 3 年 4 月 1 日）

厚生労働省の平成 20 年～24 年人口動態保健所・市町村別統計によると、本市の合計特殊出生率は 1.46 で、全国の 1.38 を上回るが、県の 1.53 を下回り、国が公表した「希望出生率」（結婚や出産に関する国民の希望が実現した場合の出生率）1.8 や、人口を長期的に一定に保てる水準とされる 2.07 に対しては大きく下回っている。

また、小学生以下の子どもがいる子育て世帯アンケートの「沼津市は子育てのしやすいところだと思うか」という質問では、「思う」「やや思う」が計 27.5%に対して、「あまり思わない」「思わない」が計 68.1%との回答結果となり、本市の子育て環境への市民満足度は低い状況にある。

若い世代が安心して子どもを産み育てることができるよう、経済的な負担を軽減する施策の拡充や、出会い・結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の充実を図るとともに、特色ある沼津らしい子ども教育の推進や家族や地域、企業と連携した仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の確保に努め、若い世代が希望する子育て環境づくりを進めていく。

4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

《数値目標》

- 地域別災害避難行動計画作成率 0.0%（平成 26 年度実績） ⇒ 100.0%（令和 2 年度）

「しごと」と「ひと」の好循環は、それを支える「まち」の活性化によって、より強固に支えられる。「まち」を形成する「地域」の活性化のためには、安全・安心で快適な生活環境の整備が必要である。

静岡県第 4 次地震被害想定分析と対策の再検証を実施した上で、地域特性や東日本大震災の教訓等を活かし策定した「沼津市地震・津波対策アクションプラン」に基づく地震・津波対策や、常襲浸水地域の浸水被害の軽減対策など、様々な自然災害への対策を総合的に推進する。

加えて、大規模災害発生時には、地域住民による防災活動が重要となることから、自主防災組織や消防団などの地域防災組織の充実・強化とともに、地域住民が迅速かつ安全に避難できるよう、防災対策に関する意識の普及啓発や地域別の災害避難行動計画の策定に取り組む。

また、公共施設のマネジメントや公共交通の活性化により、都市的居住圏と地域核の連携や生活利便性の向上を図るとともに、自治会や地域コミュニティなど地域住民が自主的に取り組む活動を支援し、市民がいつまでも安心して、それぞれの地域で共に支え合い、快適に暮らせるまちづくりを進めていく。

III. 施策の方向と具体的な取組

4つの基本目標を達成するため、6か年で取り組む各基本目標の「施策の方向と具体的な取組」を明らかにする。

■ 基本目標と施策の方向

基本目標	施策の方向
1. 沼津における安定した雇用を創出する	1-1 地場製品の競争力強化と経営の安定化 1-2 新たな仕事づくりと雇用の創出 1-3 地域産業を担う人材の確保・育成 1-4 立地環境を活かした企業誘致
2. 沼津への新しいひとの流れをつくる	2-1 まちなか居住の推進と都市的魅力の向上 2-2 “ぬまづ暮らし”の発信による住み替えの促進 2-3 観光資源を最大限活用した交流人口の拡大 2-4 外国人の誘客とおもてなしの充実
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	3-1 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現 3-2 若い世代の経済的安定 3-3 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 3-4 子ども・子育て支援の充実 3-5 沼津らしい子ども教育の更なる推進
4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する	4-1 災害に強い安全・安心な生活環境づくり 4-2 便利で快適な居住環境の整備 4-3 共に支え合う地域コミュニティの充実

■ 施策の方向の記述内容

(1) 関係者の意見

■：有識者会議意見

◎：プロジェクトチームヒアリング 【ヒアリング先】

◆：市民・企業意識調査

Q	: 質問	A	: 回答
【20代】	: 20代前半	【婚活】	: 婚活イベント参加者
【子育て】	: 子育て世代	【事業者】	: 市内事業者
【観光】	: 観光客	【共通】	: 各意識調査共通

(2) 施策の方向

(3) 具体的な取組

取組名		担当課
取組内容		
数値目標	基準値	KPI（重要業績評価指標 R2）

1. 沼津における安定した雇用を創出する

1-1 地場製品の競争力強化と経営の安定化

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

- ◆【共通】Q. 沼津の魅力だと思うこと？[複数回答] A. 魚や寿司など海産物がおいしい。
- ◆【事業者】Q. 今後、市内で活動するために重要なことは？[複数回答] A. 沼津周辺で取引先の数が増える 39.9%、主要販売先や仕入先が沼津周辺にある 38.9%。

(2) 施策の方向

地場産品に係る経営環境は、従事者の高齢化や後継者不足、販売価格の低迷などにより、厳しい状況にあるため、新商品の開発や地産地消の推進、積極的なPRによるローカルブランドの確立等を通じて、地場産品の振興に努め、競争力強化と経営の安定化を図る。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
沼津の物産の認知度	84.0%	90.0%

(3) 具体的な取組

1-1-① 物産振興の推進			商工振興課
本市物産の振興や地域資源を利用した新たなブランド品等の研究開発、販路拡大、地産地消の推進など事業の支援を通して、地域産業の活性化を図る。			
取組内容			
●物産の振興、販路拡大及びブランド確立など諸活動の支援 ●本市の物産や食文化を内外に発信するイベントの開催支援 ●「食」を通じた地域資源の掘り起しによる本市の魅力発信 ●沼津市物産振興協議会等と協働した新たな物産の開発・商品化			
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
沼津の物産の認知度	84.0%	90.0%	
1-1-② 地産地消の総合的な推進			農林農地課
安全・安心な食生活の実現のため、地域で生産された農畜産物を地域で消費する「地産地消」運動を推進し、その定着化を総合的に図る。			
取組内容			
●食育DAYキャンプ in ぬまづ（小学校高学年児童を対象に地元農産物をテーマとした食育講座）の開催 ●沼津農林まつりの開催 ●戸田さんさんまつり農産物品評会の開催 ●食の安全・安心の推進 ●教育ファームの推進（食育農業体験） ●学校給食への地場農産物の提供拡大 ●産直市を活用した地場農産物の消費拡大 ●新規販路開拓に向けた検討			
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
産直市の来店客数及び売上実績	来店客数 144,340 人 売上実績 201,663 千円	来店客数 150,000 人 売上実績 220,000 千円	
1-1-③ 沼津の農産物振興			農林農地課
本市の二大基幹農産物である“茶”と“みかん”の消費拡大や品質向上、販路拡大、PR等の支援により、農産物の振興を図る。			
取組内容			

●沼津茶の消費拡大推進 ●茶の魅力の再発見 ●茶の伝統文化の推進 ●みかん新品種の試験導入 ●献上茶の謹製		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
一番茶生産量 (JA 南駿取扱量)	346 t	351 t

1-1-④ 水産業振興の推進		水産海浜課
本市を代表する地場産業として地域経済を支える重要な役割を担ってきた水産業の振興推進を図るため、魚食普及や販路拡大等の活動を行う水産業団体を支援する。		
取組内容		
●水産加工品のブランド化や知名度向上、魚食普及・地産地消活動の支援 ●深海生物を活用した戸田活性化 ●漁業者の出漁意欲の喚起と水産物の流通促進を図るため、沼津魚市場等へ水揚げする市内漁業者を対象にした奨励金の交付		
数値目標	基準値 (H25)	KPI (重要業績評価指標 R2)
沼津魚市場水揚げ品金額	2,896 百万円	3,200 百万円

1-2 新たな仕事づくりと雇用の創出

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

■沼津市において中核となる「産業づくり」が重要。

◆【20代】Q. 今後就職や転職で住む場所を選ぶ条件？[複数回答] A. 勤務先に近い 65.1%。

(2) 施策の方向

市内の事業所数、従業者数は減少傾向にあり、働く場の確保が急務となっているため、既存産業の製品開発や地域資源活用、知的財産活用などを通じた地域の産業育成や起業支援とともに、市内の遊休不動産を活用しながら、まちなかの居住を支えるサービス業等の新たな担い手を育成し、新たな仕事づくりと雇用の創出を図る。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
新規に創出した従業者数	20 人	287 人 (6 か年累計)

(3) 具体的な取組

1-2-① まちなか起業の支援		商工振興課
都市機能を計画的に集積したコンパクトなまちづくりを進めるためには、本市の中心市街地において、医療・福祉・教育・文化・商業といった居住を支えるサービスを強化する必要があることから、これらサービスに係る担い手の育成を図り、起業を促進する。		
取組内容		
●中心市街地の居住を支える必要な機能調査 ●起業コーディネーターの設置と育成 ●エリア内の居住を支える必要な機能の起業家の公募 ●初めて起業を考えている人（主婦等）への支援		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
新規に創出した従業者数	0 人	25 人 (6 か年累計)

1-2-② リノベーションによるまちづくりの推進		まちづくり政策課
経済活動の停滞などにより増え続けている本市の遊休不動産を活用し、まちづくりに積極的に取り組む市民・民間事業者による都市的産業を一定エリアに集約し、これを連鎖させエリア価値の向上を図る。		
取組内容		

●リノベーションまちづくり ・民間施設編（エリア設定、エリア構想策定、モデル事業の実施、リノベーションスクール開催、実事業化支援） ・公共施設編（公共施設マネジメント計画と連携したリノベーションまちづくり） ●まちづくりに積極的な公と民のプレーヤー同士のネットワークづくり ●まちづくりファンドと連携したまちづくり		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
本事業を通じて増加した従業者数	従業者数 0 人	従業者数 62 人（6 か年累計）
本事業を通じて増加した居住者数	居住者数 0 人	居住者数 29 人（6 か年累計）

1-2-③ 起業創業支援		商工振興課
起業家やベンチャー企業の事業化促進、先進技術や産学連携による製品開発、地域資源活用や知的財産活用などを通じて地域の産業育成と人材育成により経済活性化を図る。		
取組内容 ●沼津地域中小企業支援センターの運営支援 ●産学官金連携ビジネスの強化 ●産学共同研究の支援 ●ニュービジネスの創出 ●地域資源の活用開発支援		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
新規に創出した従業者数	20 人	200 人（6 か年累計）

1-3 地域産業を担う人材の確保・育成

(1) 関係者の意見（■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

- ワーク・ライフ・バランスの効果は、雇用創出、業績向上、人材定着や生産性向上に繋がる。
- ◎【まちの活動家】沼津で働きたいが、どこに就職してよいかわからないという意見が多い。沼津の企業で魅力的なところはあっていると思っており、若者に地元企業の情報や魅力を発信する仕組みが必要。
- ◆【事業者】Q. 今後、市内で活動するために必要な行政の支援策は？[複数回答] A. 従業員等の確保 24.2%。

(2) 施策の方向

企業等の地方採用・就労を拡大するため、雇用ニーズや就職希望等の情報共有、マッチングを強化し、地域産業を支える人材を確保するとともに、今後、発展が見込まれる観光業において、外国人向けのおもてなし研修の実施や、農業振興を図るための意欲的な農業者支援を通じて、次世代の地域産業を担う人材を育成する。

数値目標	基準値（H24）	KPI（重要業績評価指標 R2）
従業者数	10 万 6 千人	11 万人

(3) 具体的な取組

1-3-① 沼津しごとの応援（若年者の就労支援）		商工振興課
市内企業の魅力を発信するとともに、若年者に企業の魅力をPRし、雇用を促進する。		
取組内容 ●若年者就労支援セミナーの開催 ●沼津しごと応援サイトの導入に向けた企業・大学等との協議・調整 ●企業に対するホームページ開設、Web デザイン等の制作支援 ●若年者への地元企業の周知方法の調査研究		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
UIJ ターンを含む就職者数 （参加企業に対するアンケート）	0 人	90 人（6 か年累計）

1-3-② 外国人等の受入環境整備		観光戦略課
富士山の世界文化遺産登録や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催などを背景に外国人をはじめとする来訪者の増加が見込まれることから、公衆無線 LAN の拡大やおもてなし研修の実施等により受入環境を整備する。		
取組内容		
●公衆無線 LAN 環境の整備促進 ●おもてなし研修の実施 ●ポータルサイトの整備拡充 ●外国人向け多言語情報媒体の作成 ●海外インセンティブ企業向けセールスの実施 ●インセンティブ企業向け周遊メニューの開発 ●外国人旅行動向マーケティング		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
外国人宿泊客数	34,327 人	70,000 人

1-3-③ 農業振興の推進対策		農林農地課
意欲ある担い手農家を育成するとともに、耕作放棄地を解消し、地域農業の振興を図る。		
取組内容		
●農業振興地域整備計画に基づく農振農用地等の情報の適正管理 ●次世代の担い手となるべき企業の経営感覚を有する意欲的な農業者等の支援・育成 ●耕作放棄地の解消に向けた取組 ●多面的機能支払交付金事業の法定化に伴い事業を実施する活動組織への支援 ●農業共済事業の運営		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
農地の集約化件数	1 件	5 件 (6 か年累計)

1-3-④ 男女共同参画の推進		地域自治課
地域、事業所及び教育の分野において男女共同参画の浸透を図り、全ての人が対等な関係で協力し合い、共に責任を担って心豊かに暮らしていくことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指す。		
取組内容		
●男女共同参画推進委員会の開催 ●男女共同参画推進事業所の拡大 ●小中学校の児童・生徒に対する職業講話の実施 ●地域活動に男女共同参画の意識定着を図る ●モデル地区事業の実施 ●性別・年代・職域などの属性別セミナーの実施		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
男女共同参画に対する理解度	女性 43.6% 男性 38.1%	女性・男性ともに 100%

1-4 立地環境を活かした企業誘致

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

- 国が地方への企業移転を進めており、沼津も誘致しているとのことだが、他の市町は企業に来てもらうための施策が充実している。
- 大規模工業団地とは言わないが、調整区域の活用などもっとやってほしい。
- ◎【金融機関】企業誘致をしたいのであれば、工業団地等のまとまった土地の造成は必要ではないか。企業誘致を進めるという行政側の姿勢も重要である。融資制度の拡充や創業支援の補助金等の上乗せなども必要では。
- ◎【市内企業】沼津市は人口減少が県内ワーストであるので、企業立地補助の上乗せ等、企業誘致施策をもっと思い切ってやるべきではないか。まわりの市町と同じではインパクトがない。
- ◆【事業者】Q. 沼津市内に立地することのデメリットは？[複数回答] A. 用地や工場、店舗の維持コストが割高 17.0%。

(2) 施策の方向

東日本大震災以降、沿岸部からの企業移転や市外への流出が進み、企業留置とともにインパクトのある企業誘致策が求められている。今後の東名・新東名のスマートインターチェンジの整備や東駿河湾環状道路（沼津岡宮～愛鷹）の整備促進、東駿河湾環状道路（愛鷹～原）の新規事業化等に合わせた道路ネットワークの構築により、首都圏との交通利便性を活かした効果的な土地利用を図るとともに、企業立地を促進するための支援策の拡充など、積極的に企業誘致策に取り組んでいく。

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
新規企業立地数	2 件	7 件

(3) 具体的な取組

1-4-① 企業立地の促進		商工振興課
企業立地を促進するための補助制度拡充や企業立地の受け皿となる工業用地の開発可能性を検討し、企業の立地促進とともに、工業振興や雇用創出を図る。		
取組内容		
●企業誘致・留置活動の推進 ●工場等の立地や医療関連分野への設備投資等への支援制度の運用 ●新規立地インセンティブ制度の検討 ●工業用地開発可能性や文化財調査の費用支援の検討		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
制度活用に伴う新規雇用者数	9 人	35 人

1-4-② 北西部地区のまちづくり推進		市街地整備課
市北西部地区周辺での交通環境の向上による新たな土地利用を見込み、市立病院東側の市街化調整区域を市街化区域に編入し、事業者や地権者のニーズを捉え、柔軟な土地利用を行い、北西部地区の活性化を図る。		
取組内容		
●市街化区域への編入手続き ●編入区域内の基盤整備 ●大型商業施設進出計画の推進		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
編入区域内の新規雇用者数	0 人	3,000 人（6 か年累計）

1-4-③ 道路ネットワークの充実		道路建設課
スマートインターチェンジの整備や東駿河湾環状道路（沼津岡宮～愛鷹、愛鷹～原）、国道414号静岡バイパス等の整備に合わせた道路ネットワークの充実により、ひと・ものの新たな流れを作り出し、地域経済や観光面等において経済の好循環をもたらすストック効果を発現させる。		
取組内容		
●東駿河湾環状道路（沼津岡宮～愛鷹、愛鷹～原）及び国道414号静岡バイパスの整備促進（関係機関との協議、連絡調整、要望活動の実施） ●東名高速愛鷹スマートインターチェンジ（IC）及び新東名高速（仮称）駿河湾沼津スマートICの整備（スマートIC及びアクセス道路整備工事、地区協議会の開催）		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
愛鷹及び駿河湾沼津スマートICの利用交通量	0 台/日	7,500 台/日

2. 沼津への新しいひとの流れをつくる

2-1 まちなか居住の推進と都市的魅力的向上

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

■沼津市のさまざまなイベントには魅力があると感じているが、どこで何をやっているのか分からない。若者向けの情報発信を考えてみたらどうか。

■ボランティア団体、NPO、民間をはじめ、本市では様々な面白いイベントを行っているが、PRがないため、フェイスブックで情報を得ている。その情報を一括で見ることのできるものがあるとよい。

◆【20代】Q. 沼津市内で就職・転職・勤務したくない理由？〔複数回答〕 A. 沼津に楽しいと思えることや場所がない 38.3%。

◆【事業者】Q. 今後、市内で活動するために必要な行政の支援策？〔複数回答〕 A. 中心市街地の活性化 35.4%。

(2) 施策の方向

本市の中心市街地は、かつてに比べ県東部における経済的・都市的活動の拠点性が相対的に低下してきている。これまで蓄積した様々な都市機能の集積を活かし、都市的魅力的向上を図る生活基盤整備とともに、利便性の高い快適な居住環境を提供し、多様化するライフスタイルの一つであるまちなか居住を推進する。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
中心市街地居住者数 (第一・第五地区)	22,325 人	22,000 人

(3) 具体的な取組

2-1-① まちなか居住の促進		まちづくり政策課
本市のまちなかのライフスタイルに応じた個性的な生活を実現できるポテンシャルを活用し、都市的居住圏の中心となる中心核=まちなかの居住を促進する。		
取組内容		
●一緒に建替えプロジェクトの推進 ●まちなか住情報提供 ●より良い住環境アドバイザー、共同化等アドバイザーの設置 ●ママサロン・シニアサロンの整備 ●子育てワークショップの開催		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
ぬまづ暮らしの満足度	0.0%	83.6%以上

2-1-② まちなかのにぎわい創出		商工振興課
魅力あるまちづくりに取り組む諸団体との協働と商業活性化の施策により、まちの魅力向上と交流人口の拡大を図るとともに、中央公園、沼津港、狩野川、香貫山などの観光スポットや自然資産と連携・活用し、中心市街地のにぎわいを創出する。		
取組内容		
●イベントなど、積極的に取り組む商業団体、民間団体との協働及び活動支援 ●まちなか回遊性向上に関する取り組みの推進 ●中央公園や狩野川左岸の活用を図る施設の運営 ●関係機関と連携した狩野川右岸階段堤の活用推進 ●駅前にぎわい広場の活用によるにぎわい創出 ●人材育成、起業支援、商業リブランディング及び環境整備等による中心市街地商業の活性化		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
中心市街地歩行者数	77,841 人	80,000 人

2-1-③ めまづまちあるきマップ作成 (2-3-①関連) 商工振興課		
中心市街地のまちあるきを楽しむため、新たなまちの宝・魅力を発見するために温かみのある手書き地図によるアプリと紙媒体を作成し、店舗や施設等を紹介する。		
取組内容		
●港とまちを結ぶプロジェクトとして手書き地図の作成 ●地図づくりワークショップの開催 ●地図づくりの一般募集 ●手書き地図の作成 ●手書き地図の流通 ●Web サイトでの活用		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
中心市街地歩行者数	77,841 人	80,000 人

2-1-④ リノベーションによるまちづくりの推進【再掲】 まちづくり政策課		
経済活動の停滞などにより増え続けている本市の遊休不動産を活用し、まちづくりに積極的に取り組む市民・民間事業者による都市的産業を一定エリアに集約し、これを連鎖させエリア価値の向上を図る。		
取組内容		
●リノベーションまちづくり ・民間施設編（エリア設定、エリア構想策定、モデル事業の実施、リノベーションスクール開催、実事業化支援） ・公共施設編（公共施設マネジメント計画と連携したリノベーションまちづくり） ●まちづくりに積極的な公と民のプレーヤー同士のネットワークづくり ●まちづくりファンドと連携したまちづくり		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
本事業を通じて増加した従業者数	従業者数 0 人	従業者数 62 人（6 か年累計）
本事業を通じて増加した居住者数	居住者数 0 人	居住者数 29 人（6 か年累計）

2-1-⑤ 沼津駅周辺総合整備 沼津駅周辺整備部		
駅周辺の鉄道高架化により南北交通の円滑化と南北市街地の一体化を図り、都市基盤の強化と中心市街地の活性化を進める。		
取組内容		
●土地区画整理事業（駅南第一地区・東部拠点第二地区：建物移転、公共施設整備、換地処分）		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
建物移転進捗率（駅南第一地区）	65.8%	100.0%

2-1-⑥ 市街地再開発推進（町方町・通横町地区第一種市街地再開発） 市街地整備課		
町方町・通横町地区において、都心居住の先導的な街並みを形成し居住人口の拡大を目指すとともに、魅力的な商業施設を配置し、中心市街地の回遊性の向上を図る。		
取組内容		
●組合設立認可申請 ●権利変換計画認可申請 ●補償契約 ●既存建物解体 ●建物整備着手		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
町方町・通横町の人口	273 人	523 人

2-1-⑦ 香陵公園周辺整備 香陵公園周辺整備室		
香陵公園（香陵運動場）に新市民体育館を建設することに合わせ、香貫駐車場の建て替えや周辺施設を含む地区全体の整備を行い、当該地区を中心市街地の活性化及び回遊性向上に寄与する地区とする。		
取組内容		
●香陵公園周辺整備の基本的な考え方の公表 ●P F I 事業による実施方針の決定・事業者の募集 ●新立体駐車場の建設 ●新市民体育館の建設		

数値目標	基準値（H25）	KPI（重要業績評価指標 R5）
新市民体育館の年間利用者数	254,448 人	400,000 人

2-2 “ぬまづ暮らし”の発信による住み替えの促進

(1) 関係者の意見（■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

- 小学生による沼津のよいところ探しなど、生涯学習の視点でまちづくりを考えてみてはどうか。
- 新しく転入してきた人に聞くと、沼津市は公共トイレ、雑草、歩きたばこなどまちが汚いという声がある。住みたいまち、きれいなまちづくりが重要。
- 沼津にきた人に好感を持ってもらわなければいけない。彼らが口コミで印象を伝えていくが、それがプラスとマイナスでは大違いになるため、非常に重要。
- ◎【まちの活動家】沼津ならこんな優雅な生活ができるんだというイメージの発信を日頃からしていくことが重要ではないか。
- ◎【まちの活動家】女性団体をはじめ、さまざまな団体がボランティアで活動していることは強みである。毎週のようにイベントを開催しており、その情報を一元化して発信するものがあるとよい。
- ◆【子育て】Q. 沼津市で子育てがしにくいと思う理由？[複数回答] A. 公園など子どもを遊ばせる場所が不十分 65.2%。
- ◆【共通】Q. 沼津の魅力だと思うこと？[複数回答] A. 気候が温暖である、海や山など自然に恵まれている。

(2) 施策の方向

本市は温暖な気候と恵まれた自然環境、首都圏との近接性を活かし、都会的な暮らしを営む一方で、自然を満喫した暮らしを送ることができ、多様なライフスタイルに対応した生活環境が整っている。市民が個性的で自分らしいを実現できる”ぬまづ暮らし”の魅力の周知・浸透を図り、移住・定住を促進する。

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
社会移動数	-986 人	均衡

(3) 具体的な取組

2-2-① ぬまづ暮らしへの住み替えの促進		政策企画課
首都圏や近隣市町の住民に、自分らしい生活を楽しめる”ぬまづ暮らし”の魅力を発信し、本市への住み替え促進を図ることにより人口減少に歯止めをかける。		
取組内容		
●移住定住促進パンフレットの制作 ●県主催の首都圏移住相談会への出展 ●静岡県移住相談センターや全国移住ナビ、ゆとりすと静岡との連携、情報提供 ●移住定住情報インターネットページ・移住PR動画の作成 ●ぬまづ暮らし体験ツアーの開催 ●空き家バンク導入の検討 ●移住者受入体制の構築 ●移住定住意識調査		
数値目標	基準値（H25）	KPI（重要業績評価指標 R2）
相談受付者の実移住者数	2 人	105 人（6 か年累計）

2-2-② シティプロモーションの推進（2-3-①関連）		観光戦略課
沼津市シティプロモーション推進プランに基づき、本市が有する魅力の磨き上げと情報発信を実施し、まち全体のイメージアップを図る。		
取組内容		
●魅力創造プロジェクト（ぬまづの魅力の再編成等） ●素敵なぬまづ暮らし提案プロジェクト（移住定住や交		

流のPR等) ●情報発信力の強化(新メディア活用等)		
数値目標	基準値 (H25)	KPI (重要業績評価指標 R2)
地域ブランド調査「魅力度」ランキング(ブランド総合研究所実施)	179 位	99 位

2-2-③ 公園リノベーション		緑地公園課
市内の公園について、子育て世代の使いやすさを重視した再検討、再整備を実施し、安全・安心で快適に暮らせるまちづくりを推進する。		
取組内容		
●新規導入すべき機能の調査(駐車場含む) ●民間による施設設置、管理運営方法の検討 ●検討結果に基づく公園再整備 ●施設改修、再配置の検討 ●子育て世代に促した公園のPRの検討、実施		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
使いやすい公園化実施数	0 件	5 件(6 か年累計)

2-3 観光資源を最大限活用した交流人口の拡大

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

- 一番重要なことは、まちづくりにかかわる「人」をつくること
- 観光業は波及効果が大きい。伊豆の玄関口として他市町と連携してほしい。
- 沼津の海岸沿いは景色がよくてきれいなのに、流木やごみが落ちていて景観を損なっている。観光振興を目指すなら、こうした対策にも配慮すればプラスになる。
- ◎【写真家】沼津の自然、特に「海」のポテンシャルは全国有数。ケーキなど加工食品では首都圏にかなわない。新鮮な「魚」という素材で勝負すべき。沼津港、びゅうお、深海水族館、水質のよい海水浴場、淡島、大瀬、戸田等、多くの魅力ある海スポットはあるが、パッケージ化されていない。海をテーマにセットでPRすべき。
- ◎【旅行業者】沼津の観光のイメージは、新鮮な魚が食べられるところ。沼津の海産物の「食」の振興を図ることが、観光振興につながる。漁協直売の新鮮な海産物が食べられることは強みであり、漁協等と連携し、売り出すことができれば集客につながる。
- ◆【共通】Q. 沼津の魅力だと思うこと？[複数回答] A. 魚や寿司など海産物がおいしい、海や山など自然に恵まれている。
- ◆【観光】Q. 沼津と聞いて思いつくこと、イメージ？[複数回答] A. 魚、寿司、ひものなど海産物 83.6%。

(2) 施策の方向

本市を含む県東部地域は、世界に誇れる美しい自然環境をはじめ、多くの歴史・文化遺産や特産品にも恵まれ、人々を引き入れる潜在力と可能性を秘めている。豊かな地域資源をぬまづの宝へとさらに磨き上げ、その魅力を最大限に活用して、訪れてみたいまちづくりを進める。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人

(3) 具体的な取組

2-3-① 海と水辺を活かすぬまづの宝の顕在化 (統合事業)	観光戦略課他 2 課
観光客を増加させるため、沼津の海・水辺に新たなイメージを付加するような、若者、女性、アウトドア派等、具体的なターゲットを設定した戦略的な取り組み等を実施する。	

取組内容		
●今後の事業展開の基礎となる客観的なデータの収集及び、トレンド発信力のある民間人を招いたファムトリップ等の実施による客層の分析・想定 ●深海魚等、新たな切り口でのコンテンツづくり ●情報発信ツールの作成 ●まちづくりに係るキーマンの発掘と市民レベルでの担い手の拡充 ●清水町との連携による家康が求めた安息の地「柿田川」の魅力創出		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人

2-3-② 地域観光資源の顕在化		(2-3-①関連)	観光戦略課
愛鷹、駿河湾沼津へのスマートインターチェンジの開設により、今後自家用車による来訪客の増加が見込まれるため、主要観光スポットへのアクセス向上を活かした旅行形態の創出など、北西部地区の観光資源の顕在化とネットワーク化を図る。			
取組内容			
●情報発信民間アドバイザーによる訴求力の高い観光資源の精査 ●東名高速道路愛鷹 SIC 近隣から主要観光スポットを巡るモニターツアーの検討及び旅行商品となり得る西部地区の観光資源の抽出 ●調査結果を踏まえた旅行商品メニューの開発、プラン造成			
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人	

2-3-③ 沼津の魚を活用した交流人口拡大		(2-3-①関連)	観光戦略課
沼津の来訪者は魚に対する期待が大きく、産地の近くの新鮮な魚は、訪問してもらえる観光資源である。市内4漁協の特色ある魚や沼津ならではの加工品を活用して、沼津市への交流人口の拡大を図る。			
取組内容			
●市内4漁協と地域の特色を活かした食事の提供 ●魚調理、釣り体験、いけす見学などの漁業体験 ●宿泊施設と連携した宿泊と食事、体験のプラン造成 ●漁協、産地のブランド力を活かした海産物の販売 ●特徴的な海産物加工品の開発と販売 ●民宿の昼食、宿泊利用の活性化 ●魚関連施設を活用した観光周遊ルートの形成・発信 ●マーケティングに基づく戦略策定 ●沼津の漁業ガイドの育成と歴史的価値の情報発信			
数値目標		基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
イベント参加者及び食事利用者実績		食事 2 千人	9 万人

2-3-④ 戸田駿河湾深海生物館の魅力発信		(2-3-①関連)	水産海浜課
戸田地区の特徴である深海生物を活用して、戸田造船郷土資料博物館内の駿河湾深海生物館への来館者数とともに、戸田地区への来訪者を増やす。			
取組内容			
●新たな標本、剥製・パネルの製作 ●内装変更等による駿河湾深海生物館の展示の充実 ●駿河湾深海生物館内での深海生物タッチプールや深海魚料理の提供、撮影コンテストの実施 ●戸田漁協主催の朝市等でのセリ体験やタッチプール等のイベントの開催			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
来館者及び戸田朝市来場者数	11,610 人	12,900 人	

2-3-⑤ 海の魅力発信	観光戦略課
本市が有する海や海岸線の資源とそれをもとに発展した文化・歴史を活かして、海の魅力を市内外に発信し、海辺のにぎわいとネットワークづくりを進め、本市を訪れる観光客の拡大を図る。	

取組内容		
●海に関するイベント支援（大瀬まつり、戸田港まつり、市民団体等の実施イベント） ●観光資源の管理 運営及びPR（大型水門「びゅうお」、我入道の渡し、海水浴場等） ●にぎわいのネットワークづくりと情報発信 ●既存の事業の見直しと新たな事業の検討		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人

2-3-⑥ 沼津港のにぎわい創出		水産海浜課
沼津港港湾振興ビジョンの進捗とともに、にぎわい拠点としての更なる発展と、周辺への波及を図る。		
取組内容		
●早朝や夜間まで考慮した沼津港エリア内における回遊促進 ●地元ソフト事業（催事など）への支援協力		
数値目標	基準値（H24）	KPI（重要業績評価指標 R2）
来港者入込客数	145 万人	163 万人

2-3-⑦ イベント展開とにぎわいの創出		観光戦略課
個性と魅力のあふれる本市の主要イベントの開催のほか、市民団体等の実施するにぎわい創出事業を支援し、四季折々の沼津の地域個性を内外に発信し、まちのにぎわいづくりを進める。		
取組内容		
●各種イベントの開催支援（沼津夏まつり、松籟の宴（菊華展）、ごぜ芸能まつり、戸田さんさんまつり、菜の花まつり） ●新たなにぎわい創出事業の支援		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
対象イベントの観光交流客数	33 万人	36 万 3 千人

2-3-⑧ 広域観光・コンベンションの推進		観光戦略課・スポーツ交流推進課
広域観光の推進を図るとともに、プラサヴェルデにおけるコンベンション開催等、利用促進するための支援や環境づくりを行い、交流人口の拡大、中心市街地の活性化、地域への経済波及を目指す。		
取組内容		
●開催支援制度を活用したプラサヴェルデでのコンベンションや、フェンシング等のスポーツイベント・大会・合宿等の誘致 ●関係団体と連携した利用者・来場者へのおもてなし手法と受入体制の整備 ●伊豆半島ジオパーク、美しい伊豆創造センター等の広域団体及び事業への参画		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人

2-3-⑨ 拠点公園の整備促進		緑地公園課
沼津御用邸記念公園・愛鷹運動公園等について施設機能を向上させることにより、交流人口を増加させる。		
取組内容		
●新規導入すべき機能の調査 ●民間による施設設置、管理運営方法の検討 ●検討結果に基づく公園再整備又は機能の追加		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
施設利用者数（御用邸記念公園）	17 万 8 千人	23 万人

2-3-⑩ 戸田松城邸の保存修復		文化振興課
回船問屋戸田松城家の擬洋風建築の建造物群は、国の重要文化財の指定を受けているが、老朽化が進んでいることから修復を行い、戸田地域の中核的な文化財として保存し、地域振興の拠点として活用を図る。		
取組内容		

●修景整備・建造物補修 ●総合調査 ●便益施設・周辺整備 ●修復現場随時公開		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
年間見学者数	654 人	1,000 人

2-3-⑪ 興国寺城跡の保存整備		文化振興課
戦国時代の城跡である国指定史跡興国寺城跡の保存顕彰を図るとともに歴史体験の場として修景を整備し、その活用を図る。		
取組内容		
●公有化 ●発掘調査 ●実施設計 ●整備工事 ●便益施設及び駐車場整備		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
年間見学者数	3,650 人	14,700 人

2-3-⑫ 長浜城跡の保存活用		文化振興課・観光戦略課
戦国期における北条水軍の城郭として貴重な文化財である長浜城跡の保存を図り、修景を復原して歴史体験の場として整備し、その活用を図る。		
取組内容		
●長浜城跡をテーマとしたイベント等の実施 ●学術的な面から長浜城跡を周知する事業の実施 ●施設の日常管理		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
年間見学者数	3,650 人	12,700 人

2-3-⑬ 道路ネットワークの推進【再掲】		道路建設課
スマートインターチェンジの整備や東駿河湾環状道路（沼津岡宮～愛鷹、愛鷹～原）、国道414号静岡バイパス等の整備に合わせた道路ネットワークの充実により、ひと・ものの新たな流れを作り出し、地域経済や観光面等において経済の好循環をもたらすストック効果を発現させる。		
取組内容		
●東駿河湾環状道路（沼津岡宮～愛鷹、愛鷹～原）及び国道414号静岡バイパスの整備促進（関係機関との協議、連絡調整、要望活動の実施） ●東名高速愛鷹スマートインターチェンジ（IC）及び新東名高速（仮称）駿河湾沼津スマートICの整備（スマートIC及びアクセス道路整備工事、地区協議会の開催）		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
愛鷹及び駿河湾沼津スマートICの利用交通量	0 台/日	7,500 台/日

2-3-⑭ サイクリストフレンドリーエリアの創造		スポーツ交流推進課
2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を背景に、伊豆半島における自転車への注目度が高まる中、自転車を利用した本市での新しい楽しみ方を発信することにより観光交流客数の増加を図るため、舟運を活用するなど既存の観光資源と自転車を組み合わせた観光コンテンツの開発、地域のおもてなし意識の醸成、交流拠点となる施設の整備等を行う。		
自転車の周遊範囲の広さを踏まえ、近隣市町と連携して取り組みを進めることにより、観光交流客数の増加への相乗効果を狙う。		
取組内容		
●観光資源を活用したサイクリイベントの開催 ●舟運を活用するなど海とサイクルをつなぐ観光プランの提案 ●地域のおもてなし意識向上に向けた企画の実施 ●地域と観光客との交流拠点となる施設の整備 ●サイクリストに応じた推奨コースの設定 ●サイクリストの利便性向上に向けた環境整備		

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人

2-4 外国人の誘客とおもてなしの充実

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

◎【旅行業者】外国人が情報を得る手段としては、インターネット・スマートフォンなど IT 系の情報取得がメインである。そのため、外国人目線でのインターネット上の情報発信は非常に重要。外国人の旅行先の決定や出発前の情報取得手段としては、個人のブログから情報を得ているという分析結果が出ている。そのため、沼津の観光情報等を、外国人に体験してもらい、それを自国に発信してもらう取り組みは効果が高いのではないかと。外国人にホームページのコンテンツをつくってもらうなど、外国人目線の情報発信が必要。外国人誘客には、受け入れ態勢が必要。本市においては受け入れ態勢が整っていない。重要であるのは、「多言語化」。

(2) 施策の方向

首都圏からの交通利便性や富士山世界文化遺産登録を背景に、外国人宿泊客数が年々増加している。今後も、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、外国人来訪者の増加が見込まれるため、多言語周知媒体の作成やおもてなしに関わる人材の育成、サービスの充実、向上を図り、外国人来訪者をぬくもりあふれるおもてなしで迎える環境を整備する。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
外国人宿泊者数	34,327 人	70,000 人

(3) 具体的な取組

2-4-① 外国人等の受入環境整備【再掲】		観光戦略課
富士山の世界文化遺産登録や 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催などを背景に外国人をはじめとする来訪者の増加が見込まれることから、公衆無線 LAN の拡大やおもてなし研修の実施等により受入環境を整備する。		
取組内容		
●公衆無線 LAN 環境の整備促進 ●おもてなし研修の実施 ●ポータルサイトの整備拡充 ●外国人向け多言語情報媒体の作成 ●海外インセンティブ企業向けセールスの実施 ●インセンティブ企業向け周遊メニューの開発 ●外国人旅行動向マーケティング		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
外国人宿泊者数	34,327 人	70,000 人

2-4-② 多言語周知媒体の作成 (2-3-①関連)	観光戦略課
静岡県中国や台湾、タイ、インドネシア等の東南アジアへのインバウンド施策の実施傾向などを踏まえ、今後の来訪が予想される国の言語による情報提供を進め、交流人口の拡大を図る。	
取組内容	
●在日外国人を対象とした旅行動態、嗜好把握のためのモニターツアーの実施 ●各国の外国人の嗜好に応じた多言語情報提供媒体の作成 (英語・韓国語、中国語 (繁体字・簡体字)、タイ語、インドネシア語)	

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
外国語パンフレットの配布部数	英語：2,459 部 韓国語：760 部	英語：5,000 部 韓国語：1,000 部 中国語（繁体字）：1,500 部 中国語（簡体字）：5,000 部 タイ語：1,000 部 インドネシア語：1,000 部

2-4-③ 広域観光・コンベンションの推進【再掲】

観光戦略課・スポーツ交流推進課

広域観光の推進を図るとともに、プラサヴェルデにおけるコンベンション開催等、利用促進するための支援や環境づくりを行い、交流人口の拡大、中心市街地の活性化、地域への経済波及を目指す。

取組内容

●開催支援制度を活用したプラサヴェルデでのコンベンションや、フェンシング等のスポーツイベント・大会・合宿等の誘致 ●関係団体と連携した利用者・来場者へのおもてなし手法と受入体制の整備 ●伊豆半島ジオパーク、美しい伊豆創造センター等の広域団体及び事業への参画

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
観光交流客数	381 万 5 千人	500 万人

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

3-1 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現

(1) 関係者の意見 （■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

■子育て環境の充実や定住促進も重要だが、その前提としてワーク・ライフ・バランスの実現が必要。そういう環境が整っていればこそ、移住・子育ての問題にも対応できる。

◎【保育所利用者】父親に対する子育てについての教育を充実させて欲しい。

◆【子育て】Q. 子どもが結婚当初の希望より少ない理由？[複数回答] A. 就労と子育てを両立する時間がない 28.4%。

◆【事業者】Q. 事業者が自社の従業員の出産や子育てに何らかの支援をすべきか？ A. 思う＋多少思う 82.2%。

(2) 施策の方向

育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの推進に関する取組を啓発し、職場や社会における子育て意識の向上と理解の促進を図る。

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
男女共同参画推進事業所数	54 事業所	90 事業所

(3) 具体的な取組

3-1-① 男女共同参画の推進【再掲】		地域自治課
地域、事業所及び教育の分野において男女共同参画の浸透を図り、全ての人が対等な関係で協力し合い、共に責任を担って心豊かに暮らしていくことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指す。		
取組内容		
●男女共同参画推進委員会の開催 ●男女共同参画推進事業所の拡大 ●小中学校の児童生徒に対する職業講話の実施 ●地域活動に男女共同参画の意識定着を図る ●モデル地区事業の実施 ●性別・年代・職域などの属性別セミナーの実施		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
男女共同参画に対する理解度	女性 43.6% 男性 38.1%	女性・男性ともに 100.0%

3-1-② 家事男の育成		子育て支援課
男性が積極的に家事に参加し、女性に負担がかかる家事、育児責任を分散させることで、育児不安を和らげ、女性の多様な働き方が実現できる環境整備につなげる。		
取組内容		
●男性に家事参加の大切さを理解してもらうためのセミナーの開催 ●「カジメン」を普及させるため、情報冊子への掲載やHP、SNS等の活用		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
子育てしやすい環境にあると感じている市民の割合	50.6%	73.9%

3-2 若い世代の経済的安定

(1) 関係者の意見 （■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

■沼津市だからできる子育て世代への優遇施策を考えるべき。

■最近結婚が30歳過ぎの方も多く、そこから子どもをつくりたいと思っても不妊治療が大変。子どもを授からない方への支援もしてほしい。

◎【市職員】乳幼児や子育て世代に優遇された施策や環境を実現する必要がある。

◆【子育て】Q. 子どもが結婚当初の希望より少ない理由？[複数回答] A. 自分や相手の収入 45.2%。

(2) 施策の方向

結婚・出産・子育てへの若い世代の経済的な不安を解消するため、不妊・不育症治療費や子ども医療費等の助成、住宅取得に関する奨励金を交付などの多様な支援策により、若い世代の経済的負担の軽減を図る。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
若い世代の社会移動数 (15歳～39歳)	-634人	均衡

(3) 具体的な取組

3-2-① 若者世代住宅取得の促進		政策企画課
本市に住宅を取得した若者世帯に対して奨励金を交付し、少子化対策、移住・定住推進など多面的な施策目標の達成を目指す。		
取組内容		
●奨励金対象者 1. 定住（5年以上の居住）を目的として、平成27年7月1日から令和2年3月31日までに住宅（新築住宅・建売住宅・中古住宅及び分譲マンション（居住用の部分の床面積が50平方メートルを超えるもの））を取得（無償譲渡や相続などを除く）し、又は親と同居のために住宅をリフォームし、夫又は妻のいずれかが交付申請のときにおいて、40歳未満である夫婦のいる世帯。） 2. 申請するときに、交付の対象となる者が、本市に納付すべき市税を滞納していないこと。 ●奨励金額 1. 世帯員全員が、市外から沼津市へ転入（転入の日の前日まで1年以上継続して市外に居住していたもの）し、併せて住宅を取得した世帯 市外から転入 110万円、県内中西部から転入 60万円、東部地域から転入 10万円 中学生以下の子どもに人数に応じて10万円（上限30万円）、及び親と同居又は近居の場合10万円を加算 2. 親と同居のために市外から転入、60万円以上のリフォームを行った世帯 30万円		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
若い世代の社会移動数 (15歳～39歳)	-634人	均衡

3-2-② こども医療費等の助成		こども家庭課
乳幼児や子どもの医療費を助成することにより、保護者の経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てることができる環境の整備を図る。		
取組内容		
●医療費助成 ・0歳児から高校3年生相当年齢の児童等が通院・入院した際の医療費（保険診療による自己負担分）の助成 ●自己負担金 ・入院・通院：0円		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
医療費助成率	76.3%	100%

3-2-③ 不妊・不育症治療費の助成		健康づくり課
不妊・不育症治療を受けた夫婦の経済的負担の軽減を図る。		
取組内容		
●不妊・不育症治療費のうち、静岡県特定不妊治療費の補助金等を控除した額の2分の1の額を助成（1年度上限30万円、通算5年間） ※次の条件をすべて満たす夫婦 ・夫及び妻の前年所得合計730万円未満であること ・戸籍上夫婦で、沼津市に住民登録があること ・治療期間の初日における妻の年齢が43歳未満であること ・第1子または第2子の治療であること		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
治療費助成件数	273 件	400 件
出生数	1,268 人	1,200 人

3-3 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

(1) 関係者の意見 （■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

- ◆【20代】Q. 将来結婚したいと思うか？ A. 思う＋多少思う 82.0%。
- ◆【20代】Q. 将来自分の子どもがほしいか？ A. 思う＋多少思う 83.1%。
- ◆【子育て】Q. 現在の子どもの数は、結婚当初の希望と比較してどうか？ A. 少ない 33.9%。

(2) 施策の方向

結婚したい、子どもが欲しいという若い世代の希望が叶えられるように、結婚・妊娠・出産・子育てに関する適切な指導や的確な情報提供、各種助成制度やサービスの提供など、切れ目のない支援の一層の充実を図る。

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
婚姻数	934 件	1,000 件

(3) 具体的な取組

3-3-① 出会い応援		政策企画課
結婚を望みながらも、異性と出会うきっかけのない方々に対して、本市の誇る地域資源を活用した婚活イベントを開催し、沼津ならではの魅力を参加者に伝え、地元愛の醸成につなげるとともに、男女の出会いの場を提供することで、少子化対策の第一段階である結婚への支援を行う。		
取組内容		
●婚活イベントの開催（テーマ）①歴史・文化、食、にぎわい ②エコ ③水産業と海 ④農業と山 等		
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
婚活イベントのカップル成立割合	0.0%	30.0%

3-3-② 少子化対策の推進		政策企画課
結婚を望む独身男女の婚活を包括的に支援することにより、本市の若者の未婚化・晩婚化の流れを変え、少子化の進行を抑制する。		
取組内容		
●婚活イベントの開催 ●コミュニケーションセミナーの開催 ●沼津市婚活支援サイト「沼津の出会い応援課」の運営 ●沼津市公認婚活サポーター「縁結び隊」による結婚相談の実施		

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
婚姻数	934 件	1,000 件

3-3-③ 出生記念のお祝い

市民課

出生届を提出された方の中で「出生届提出記念シート」申込者を対象に、おむつ替えシート等を贈呈し、新生児の誕生をお祝いするとともに、新生児が誕生した世帯の子育てを支援する。

取組内容

●新生児が誕生した世帯に対して、出生届提出記念シート、おむつ替えシート等を贈呈

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
沼津市全体の出生届受理件数	1,290 件	1,200 件

3-3-④ 不妊・不育症治療費助成【再掲】

健康づくり課

不妊・不育症治療を受けた夫婦の経済的負担の軽減を図る。

取組内容

●不妊・不育症治療費のうち、静岡県特定不妊治療費の補助金等を控除した額の2分の1の額を助成
(1年度上限30万円、通算5年間)

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
治療費助成件数	273 件	400 件
出生数	1,268 人	1,200 人

3-3-⑤ 妊娠・出産の啓発

健康づくり課

若い世代の女性が安心して妊娠、出産ができるよう市民のニーズに対応した支援サービスの提供や適切な指導及び的確な情報提供により支援の一層の充実を図る。

取組内容

●適齢期での妊娠・出産についてのシンポジウムの開催 ●高校での講座の開催

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
参加者数	0 人	300 人

3-3-⑥ 妊娠・出産の包括支援

健康づくり課

妊娠期から子育てまでの切れ目のない支援を実施し、必要に応じて相談・助言を行うとともに、関係機関と連絡調整等を行う。

取組内容

●妊産婦等の支援ニーズに応じて必要な支援につなぐ母子保健コーディネーターの配置 ●妊産婦の孤立感の解消を図るための相談支援の実施 ●出産直後に休養やケアが必要な方に対する心身のケアやきめ細かい育児支援

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
妊産婦支援件数	0 件	150 件

3-4 子ども・子育て支援の充実

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

■沼津市には保育園・幼稚園が多い。長泉町とのサービスは大きくは変わらない。沼津市で子育てすると楽しいと思えるPR・発信に力を入れるべき。

◎【保育所利用者】「必ず保育園に入れるまち」を売り出していけば、働く親としてはこんなに嬉しいまちはない。

◎【スポーツ教室受講生保護者】行政が共働き世帯を支えることは母親に優しいまちをつくることであり、そのまちの実現には母親目線の市政が不可欠。

- ◆【婚活】Q. 結婚後住む場所を決める際考える条件？[複数回答] A. 子どもを育てやすい環境 52.4%。
- ◆【子育て】Q. 沼津市は子育てがしやすいところだと思うか？ A. あまり思わない+思わない 68.1%。

(2) 施策の方向

子育て世代が“子育てが楽しいまち”と発信でき、子育てしやすい環境にあるという認知度が高まるように、多面的かつ効果的な子育て支援サービスの更なる充実を図るとともに、地域で子育てを支える仕組みづくりを進め、安心して子育てできる環境を整備する。

数値目標	基準値 (H27)	KPI (重要業績評価指標 R2)
待機児童数	26 人	0 人

(3) 具体的な取組

3-4-① 多様な保育サービス			子育て支援課
民間保育所等への支援による延長保育や病後児保育サービスの充実や、待機児童対策の実施により、保護者の多様なニーズに対応し、共働きの家庭が就労しながらも安心して子育てできる環境整備を図る。			
取組内容			
●延長保育、休日保育等の保育時間の拡大 ●一時保育や病後児保育等の保育サービスの拡充 ●待機児童等対策の実施 ●私立幼稚園での0～2歳児の一時預かりサービスの検討			
数値目標	基準値 (H27)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
幼保連携こども園数	1 園	5 園	

3-4-② 地域子育ての支援			子育て支援課
家庭の子育てを地域や行政がサポートし、個々の家庭が安心して子育てをできる環境を整え、併せて少子化傾向の改善を図る。			
取組内容			
●乳幼児や保護者同士のふれあいや育児相談の実施 ●一時預かり保育等の場として、沼津っ子ふれあいセンターやふれあいプラザ、子育てサポートキャラバン等の各種事業の運営 ●支援センターを活用した母親同士の交流を図る月例・年齢別イベントの開催 ●沼津っ子ふれあいセンターの駐車場料金助成拡大			
数値目標	基準値 (H25)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
子育てしやすい環境にあると感じている市民の割合	50.6%	73.9%	

3-4-③ 子育て支援地域ネットワークの強化			子育て支援課
子育て関係団体が相互の理解を深め、協力・連携を図るため協議会を結成し、市全体で多世代にわたり子育て支援を盛り上げていく環境と、ネットワークの構築を図る。			
取組内容			
●保育所、幼稚園、子育て支援センター、企業、あそび隊、子育てサークル関係等による協議会の組織化 ●子育て支援まつりの開催 ●母親目線の子育て情報冊子の作成			
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
子育てしやすい環境にあると感じている市民の割合	50.6%	73.9%	

3-4-④ 子育ての短期支援			こども家庭課
沼津市に居住する 18 歳未満の児童を養育する保護者等が、安心して子育てをしながら働くことができる環境を整備する。			
取組内容			
●児童ショートステイ事業（短期間の宿泊を伴う一時預かり） ●トワイライトステイ事業（夜間、休日における一時預かり）			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
児童ショートステイ事業利用者数	0 人	224 人	
トワイライトステイ事業利用者数	0 人	171 人	

3-4-⑤ 家事男の育成【再掲】			子育て支援課
男性が積極的に家事に参加し、女性に負担がかかる家事、育児責任を分散させることで、育児不安を和らげ、女性の多様な働き方が実現できる環境整備につなげる。			
取組内容			
●男性に家事参加の大切さを理解してもらうためのセミナーの開催 ●「カジメン」を普及させるため、情報冊子への掲載やホームページ、SNS 等の活用			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
子育てしやすい環境にあると感じている市民の割合	50.6%	73.9%	

3-4-⑥ 家庭教育の支援			生涯学習課
若い世代の子育てに関する不安や悩みを軽減するとともに、全ての教育の原点である家庭教育の充実を図ることで、子どもの「生きる力」を育てる。			
取組内容			
●市内の家庭教育学級に対する補助金の交付 ●保護者を対象とした講座の拡充（乳幼児コースと小中学生コースの提供） ●自信がもてる子育て講座「特別講座」の開催			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
年間受講者数	486 人	2,000 人	
子育てしやすい環境にあると感じている市民の割合	50.6%	73.9%	

3-4-⑦ Xchange（子ども服交換会）の開催			クリーンセンター管理課
リユースを推進し、市民の循環型社会形成への意識を高める。また、子育て世代にターゲットを絞り、ママ友サークル・SNS 等のネットワークを活用して実施することで、同世代の交流を通じた子育て支援等の副次的効果を図る。			
取組内容			
●子供が成長することにより着られなくなった服にメッセージを添えて次の方へとつなげる交換会の開催 ●交換会の場を通じた子育て情報の交換や悩み相談などの機会の創出			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
交換点数	0 点	240 点	
参加者数	0 人	1,800 人（6 か年累計）	

3-5 沼津らしい子ども教育の更なる推進

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

- 沼津市の強みは高校が多いこと。高校生と連携し、高校生がまちづくりに関与する仕組みが重要。高校生までに、沼津市の企業よさなど、沼津の魅力を伝え、戻っていたいと思える教育施策を考えるべきではないか。
- 勉強だけではなく、スポーツ、文化、芸術にふれる機会を設けるなど、特色ある教育が魅力につながる。
- 学生が本市のまちづくりに主体的にかかわることが、郷土愛を育むことにつながり、将来の担い手になる。
- ◎【まちの活動家】今後のまちづくりを考えたときに、「若い人材」の育成は鍵となる。「若い人材」とコミュニティをつくる場があるとよいと思う。
- ◎【PTA 母親委員会委員】地元ではどんな仕事をしている人がいるのかを小学生が知る機会を設けて欲しい。地元に興味を持たないと大人になってから皆東京に行ってしまう。

(2) 施策の方向

本市では、夢ある人を育てるため、コミュニケーション能力の基礎となる言語教育や、地域性や個性を活かした特色ある学校独自の取組の推進、小中一貫教育や中高一貫教育による連続性を考慮した独自の取組を推進してきた。今後も、沼津らしい子ども教育の充実を図り、未来を担う子どもの育成を推進する。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
全中学校 3 年生に占める英検 3 級以上合格者の割合	25.0%	37.0%

(3) 具体的な取組

3-5-① 未来の担い手育成			政策企画課・生涯学習課
学生等の若者がまちづくりに主体的にかかわることで、本市における郷土愛を醸成し、将来の定住促進を図るとともに、まちづくりに関する未来の担い手を育成する。			
取組内容			
●若者と地元団体・企業等が企画運営する地域産業の魅力向上イベントの実施 ●学生まちづくりコンペティションの実施			
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
事業実施に携わった学生数	0 人	50 人	

3-5-② がんばる学校の応援			学校教育課
地域性や個性を活かした特色ある教育活動や、様々な分野で一流と評される人と触れ合う機会を創出することで、子どもの教育の充実を図り、「夢ある人を育てるまち」を推進する。			
取組内容			
●各学校が企画する独自事業の実践 ●地域資源や地域人材を活用した事業や一流の講師と触れ合う事業への取り組みの促進 ●各学校の取組をホームページ等で公開し、市内外へのPRに活用			
数値目標	基準値 (H27)	KPI (重要業績評価指標 R2)	
事業で志が高まった子どもの割合	0.0%	90.0%	
地域資源を活用した事業実施校	54.0%	100.0%	

3-5-③ 言語教育による表現力・読解力の育成			学校教育課
コミュニケーション能力の基礎となる「言葉を用いて積極的に人とかわつていこうとする態度の育成」など、言語教育のさらなる充実を図ることにより、子どもの教育の充実を図り、「夢ある人を育てるまち」を推進する。			

取組内容		
●言語科の実施によるコミュニケーション能力の育成 ●学校司書の配置による読書活動の推進		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
全中学校 3 年生に占める英検 3 級 以上合格者の割合	25.0%	37.0%

3-5-④ 学力保証プログラムの推進		学校教育課
学力・学習状況調査を活用した授業づくりを通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用して思考したことを書いて表現する力を育む学習指導及び学力を適正に評価・評定する研究と実践を行う。		
取組内容		
●研究指定校事業（各校の学習指導が国の目指す方向に向かい適切に行われているかを調査・研究する） ●学習指導改善調査実施事業（12月に小5と中2に学力調査を実施。研究指定校の取組や成果を教育委員会が把握し、1月に研修センター師範や指導主事が学校訪問し指導する） ●確かな学力育成事業（学習のつまずきが顕著に現われる小3を対象とした放課後学習支援を全小学校で実施し、学力の底上げを行う。さらに、学校の実状に応じて、小4～小6に対象学年を広げ学力保証に努める。）		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
「授業がわかる」と感じている小中 学生の割合	85.6%	90.0%

3-5-⑤ いきいき学校生活応援スタッフの配置		学校教育課
通常学級において、集団生活に適応することが難しい児童に個別指導を行うなどにより、児童が安心して学校生活を送れる環境を提供する。		
取組内容		
●各小学校への「いきいき学校生活応援スタッフ」の配置		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
スタッフ対応児童数	1,935 人	3,900 人

3-5-⑥ 心の教室相談員の配置		学校教育課
生徒が悩みを相談しながら自ら問題を解決したり、不登校傾向から学級復帰を目指すことなどを目的とする。		
取組内容		
●各中学校への「心の教室相談員」の配置		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
相談員対応生徒数	407 人	1,300 人

3-5-⑦ 高校生しゃべり場 in ぬまづの開催		生涯学習課
多くの高校が存在し約 10,000 人の高校生が学ぶ本市の特徴を活かし、高校生に自由に意見を発表できる場を提供することで、若者が社会参加するきっかけを作るとともに、高校生自身の意識高揚を図る。		
取組内容		
●各高校代表者と公募参加者によるディスカッションの実施 ●高校生の本市に対する思い等と関連したディスカッションテーマの設定 ●参加者を中心に組織された団体 (the Government of Numazu High school students) の活動支援		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
来場者数	27 人	60 人

4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

4-1 災害に強い安全・安心な生活環境づくり

(1) 関係者の意見 (■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査)

■地震や津波などの災害に備えている市民の割合は5割程度。市民の意識啓発だけでは意味がないので、5分以内に避難できる人口が増えるよう避難路等の整備も必要。

◆【20代】Q. 沼津市に住みたくなと思う理由？[複数回答] A. 災害が不安 41.2%。

◆【婚活】Q. 沼津市に住みたくなと思う理由？[複数回答] A. 災害が不安 36.8%。

◆【子育て】Q. 沼津市に住みたくなと思う理由？[複数回答] A. 災害が不安 51.3%。

(2) 施策の方向

大規模災害発生時には、地域の住民による防災活動が重要となるため、地域防災を担う人材育成や適切な避難行動を地域住民に広く周知徹底するための避難行動計画を策定して地域防災力を強化し、災害に強い安全・安心な生活環境づくりを進める。

数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
地域別災害避難行動計画作成率	0.0%	100.0%

(3) 具体的な取組

4-1-① 安全な地域づくりの推進(災害避難行動計画づくりの支援)		危機管理課
様々な災害による被害が想定される地域での安心な暮らしのため、適切な避難行動について広く周知徹底する必要があることから、避難行動計画の策定を支援する。		
取組内容		
●災害からの避難に関する住民向けワークショップの開催 ●地区避難計画の策定 ●夜間対策として太陽光照明等を設置する自主防災会への助成		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
地域別災害避難行動計画作成率	0.0%	100.0%

4-1-② 津波対策の推進		危機管理課
地震・津波からの減災対策の推進により、災害に強いまちづくりを進め、安全・安心で快適に暮らせるまちとする。		
取組内容		
●第4次地震被害想定に伴う地震・津波対策の総点検 ●津波避難訓練による避難方法の総点検 ●避難地・避難路点検、再整備 ●津波避難ビルの指定 ●避難誘導看板等の設置		
数値目標	基準値 (H26)	KPI (重要業績評価指標 R2)
津波避難路夜間対策箇所数	31 箇所	73 箇所

4-1-③ 地震防災の意識啓発		危機管理課
東日本大震災から時間が経過するにつれて、防災意識の風化が懸念されている。沼津市民に対して、いつ災害が発生しても最適な対応ができるように、防災啓発事業をさらに活性化し、市民の自助力増大を図る。		
取組内容		
●防災体験ウォークラリーの開催 ●自主防災組織に対する防災研修会の開催 ●家具転倒防止の推進 ●津波対策旬間、防災週間、地震防災強化月間、防災とボランティア週間を通じた防災意識の啓発		

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
防災講座年間参加者数	5,263 人	5,500 人

4-1-④ 自主防災組織の活性化

危機管理課

自主防災会が行う訓練や災害時に使用する資機材の整備に対し補助金を交付するとともに、各連合自治会の防災指導員を中心に、様々な訓練を実施し、自主防災会の防災意識高揚を図るとともに、組織の充実・強化を図る。

取組内容

- 自主防災組織に対する防災意識高揚のための啓発事業、防災指導員に対する研修事業等の実施
- 自主防災組織による避難所運営体制の充実・強化
- 自主防災組織の充実・強化を図るための運営補助金及び資機材等整備補助金の交付

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
自主防災組織による避難所運営マニュアル策定数	11 箇所	49 箇所（全避難所）

4-1-⑤ 総合的治水対策の整備

河川課

常襲浸水地域において、浸水被害の軽減を図り、災害に強い安全・安心で快適に暮らせるまちづくりを進める。

取組内容

- 沼川新放水路事業の促進 ●青野排水路の設置 ●小河原川雨貯用地取得、用地測量 ●井戸川雨貯詳細設計、用地測量 ●塚田川浜水門撤去、護岸工事 ●大平江川河道改修、事業効果検証、樋管築造

数値目標	基準値	KPI（重要業績評価指標 R2）
床上浸水被害（沼川流域・大平江川流域）件数の削減	沼川流域：16 件（H19） 大平江川流域：14 件（H10）	両流域：0 件

4-2 便利で快適な居住環境の整備

(1) 関係者の意見（■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

■企業立地、観光振興のための沼津西部地域のまちづくりの具体的計画を策定するとともに、そのために必要となる東駿河湾環状道路（西区間）等の道路ネットワークの充実を図ることが必要ではないか。

◆【婚活】Q. 結婚後住む場所を決める際考える条件？[複数回答] A. 生活環境がよい、便利 65.1%。

(2) 施策の方向

体系的な交通網の整備や公共交通機関の連携強化、公共施設マネジメントの推進により、市民のみならず訪れた人にも利用しやすい交通環境を整備し、便利で快適な居住環境を創出する。

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
中心市街地の歩行者通行量	78,000 人	90,000 人

(3) 具体的な取組

4-2-① 公共施設マネジメントの推進

資産活用課

公共施設の老朽化や少子高齢・人口減少社会を見据えた中で、今後の公共施設のあり方を「公共施設マネジメント計画」として示し、施設の統廃合や再配置、長寿命化を進め、将来の財政負担を軽減、平準化を図る。

取組内容

- 現状把握、課題整理（公共施設のデータベース化） ●内部共通認識化（職員向け研修会、庁内検討会の実施）
- 市民意見の把握（市民アンケート実施他） ●計画策定（外部有識者による審議会の開催）

数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）
公共施設マネジメント計画の策定	-	計画策定（H28）

4-2-② 公共交通活性化対策			まちづくり政策課
路線バスの利便性の向上と地域に応じた公共交通体系の整備により、公共交通の活性化を図るとともに、環境負荷の低減に寄与する。			
取組内容			
●公共交通の運行補助（循環バス） ●超低床バスの導入補助 ●バス、タクシーの利用促進（PR、駐輪場付きバス停設置） ●公共交通活性化対策協議会の開催			
数値目標	基準値（H25）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
公共交通利用者数	41,427 人	40,000 人	

4-2-③ 沼津駅周辺総合整備【再掲】			沼津駅周辺整備部
駅周辺の鉄道高架化により南北交通の円滑化と南北市街地の一体化を図り、都市基盤の強化と中心市街地の活性化を進める。			
取組内容			
●土地区画整理事業（駅南第一地区・東部拠点第二地区：建物移転、公共施設整備、換地処分） ●関連道路整備事業（（都）片浜西沢田線等：用地取得、物件補償、道路改良工事）			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
建物移転進捗率（駅南第一地区）	65.8%	100%	

4-2-④ 市街地再開発推進（町方町・通横町地区第一種市街地再開発）【再掲】			市街地整備課
町方町・通横町地区において、都心居住の先導的な街並みを形成し居住人口の拡大を目指すとともに、魅力的な商業施設を配置し、中心市街地の回遊性の向上を図る。			
取組内容			
●組合設立認可申請 ●権利変換計画認可申請 ●補償契約 ●既存建物解体 ●建物整備着手			
数値目標	基準値（H26）	KPI（重要業績評価指標 R2）	
町方町・通横町の人口	273 人	523 人	

4-2-⑤ 香陵公園周辺整備【再掲】			香陵公園周辺整備室
香陵公園（香陵運動場）に新市民体育館を建設することに合わせ、香貫駐車場の建て替えや、周辺施設を含む地区全体の整備を行い、当該地区を、中心市街地の活性化及び回遊性向上に寄与する地区とする。			
取組内容			
●香陵公園周辺整備の基本的な考え方の公表 ●PFI 事業による実施方針の決定・事業者の募集 ●新立体駐車場の建設 ●新市民体育館の建設			
数値目標	基準値（H25）	KPI（重要業績評価指標 R5）	
新市民体育館の利用者数	254,448 人	400,000 人	

4-3 共に支え合う地域コミュニティの充実

(1) 関係者の意見（■有識者会議意見、◎プロジェクトチームヒアリング、◆市民・企業意識調査）

■市内に 294 の自治会があるが、高齢化が進んで役職者のなり手が少ない。役職者は 75 歳以上。役職は本来任期 2 年だが、半年で代わることもある。本来 2 年は務めないと地域のことはわからない。このままでは自治会はあと数年でなくなるのではないかと懸念されている。

(2) 施策の方向

住みよい地域づくりを進めていくためには、地域に住む人が、地域を愛する心を持ち、互いに支え合い、地域の活動に主体的に取り組む必要があるため、自治会や地域コミュニティなどが地域の特性を活かし自主的に取り組む活動を支援するとともに、地域防犯活動の推進を図り、共に支え合う地域づくりを進める。

数値目標	基準値 (H27)	KPI (重要業績評価指標 R2)
地域おこし活動支援団体数	4 団体	延べ 10 団体

(3) 具体的な取組

4-3-① 地域おこし資源の発掘整備		地域自治課
地域自らが企画・実施する積極的な地域おこしの取組みを支援し、地域の活性化を図る。		
取組内容		
●地域コミュニティ組織等が自主的に取り組む地域おこし活動等を活動開始から 3 年間に限り補助する。 【対 象】①地域のコミュニティ団体 ②コミュニティ団体が推薦する団体・組織 【補助額】事業費の 1/2 以内で、補助金額 300 千円を上限		
数値目標	基準値 (H27)	KPI (重要業績評価指標 R2)
地域おこし活動支援団体数	4 団体	延べ 10 団体

4-3-② 防犯のまちづくり		生活安心課
だれもが安心して暮らすことができるように、警察・地域・行政が連携して、市民総ぐるみとなり防犯まちづくり事業を推進し、犯罪のないまちを実現する。		
取組内容		
●地域住民が一体となって自主的に防犯活動の支援（防犯教室の開催、防犯ボランティアの育成等） ●自治会等への防犯パンフレット等の配布 ●自治会等の地域防犯関連設備への助成（防犯灯、放送施設、青色回転灯）		
数値目標	基準値 (H25)	KPI (重要業績評価指標 R2)
市内刑法犯認知件数	1, 802 件	1, 400 件